

2016年7月20日(水)

みらいの扉



高等特別支援学校 支援部 第 86号

♪体験の夏♪

もう卒業したAさんが1年生の夏休み、部活の合宿の時のお話です。明日のお迎えの時間をお母さんに言い忘れたかもしれないので電話したい用事ができました。しかし、そこは圏外。ケータイはつながりません。夜、宿泊棟から公衆電話のある本館までAさんと一緒に出掛けました。

ここから私は、ケータイがいかに便利で、慣れない公衆電話を使うことが今の生徒達にはいかに難しいものか、思い知ることとなりました。

公衆電話を掛ける手順

①公衆電話を見つける

大人なら“事務室の近く”や“駅”にある見当はつきませんが、生徒達は普段気にしていないので見つけられません。緑色であるという認識のない生徒もいます。

②必要なら両替を申し出る

“施設の人”や“お店”にはお願いしやすいですね。

③電話番号を覚えておく、又はメモして持つておく

④受話器をあげる→お金を入れる→ダイヤルボタンを押すを順番通りする

⑤ダイヤルボタンは適切な力加減と適切な早さで押す メモを見ながらゆっくり押すと、途中で切れます。

⑥自分から名乗って、積極的に話す

①～⑥の手間を、ケータイなら短縮ダイヤルボタンひとつ押すだけですませてしまうことができます。しかし、公衆電話はそうはいきません。

①～⑤まで「これも勉強だから」とがんばったAさん、やっと電話がつながりました。しかし、電話口にお母さんが出ても、何も話しません。

「Aです。って言うのよ。」と横から名乗るように言っても、Aさんは不思議そうな顔をするばかり。とうとうお母さんに通話を切られてしまいました。

あ、そうか。と私は思い当たりました。

ケータイで発信すると、誰からの電話が表示されるので、電話口で名乗る必要がなかった訳です。

「Aちゃん？どうしたの？」等今まではお母さん側から言ってもらっていたのでしょう。

Aさんに公衆電話では名乗らなければいけない理由を説明して、名乗る練習もして、再度チャレンジ。

しかし、お母さんの声を聞いてホッとしたのか、電話口で「えへへ」と言うのが精一杯、また通話を切られてしまいました。

そこからはAさんも「これはマズイ。」と思って電話するのですが、完全に不審な電話だと思ったお母さんは二度と電話に出てくれませんでした。

ケータイ（今ならスマホ？）はなくすことも、忘れることも、充電が切れることもあります。いざという時、公衆電話を使わなければならない時が来るでしょう。ケータイを使い慣れた生徒ほど公衆電話との違いに戸惑うようです。

その時はAさんも私も困ったのですが、いつものんびり屋のAさんが一生懸命電話を掛けている姿を見ると、この失敗も必要な体験だったと感ずることができました。

「公衆電話では、名乗ること、大事だったね。今日はいままでできなくて残念だったけど、次はできそう？」

お母さん、知らない人から何回もしつこく電話があったと思って怖い思いしているかもしれないね。明日先生からも事情を説明するから、Aさんからも話をしてね。」

次の日、お母さんは無事に迎えにきてくれました。しおりを見て時間を確認していたそうです。

1学期の“未来への扉”は今回で終わりです。
今学期保護者の皆様にお伝えしたかったことは、

**基礎学力をこれ以上つけることを重視する時期は終わり、
社会に出る一歩手前のこの時期、大切にしたい目標は**

「生活や人間関係の中で、適切な言動をとる実践的な力」
である **ソーシャルスキル**

と

「自立をかなえる力」である **ライフスキル**

ということです。

中学まで学力向上を目標に努力してきた生徒も多い事と思います。でも今後は、学力で勝負するわけではないことを、まずは保護者の皆様にご理解いただき、生徒達にもがんばりどころを教えていってあげてほしいと思います。特に“変更”が苦手な生徒さんには。



今回の公衆電話のお話は両方のスキルに通じますね。実際に事務室前の公衆電話で、お金もメモも持ちながら立ちつくしている生徒に出会うことが何度かあります。一度体験しても忘れてしまう生徒も多いと思いますが、自分でできた成功体験の記憶は、行動の後押しをしてくれるでしょう。

さあ！夏休みが始まります！

夏休みの課題は、教科は違えど、分からない部分は周りに少しヒントをもらいながらも“自分でやり遂げる”集中力と持続力が必要なものとなっています。

そして40日もの長い夏休みが与えられる「学校生活」も本校での夏休みが最後です。社会に出れば、これだけまとまった休みは取れません。“公衆電話”や“お昼ご飯作り”などの体験を増やしていくと共に、普段できない「何か」にチャレンジして一回り成長してくれる事を願って、生徒達を応援したいものです。